

Wish

ユニセフ兵庫ニュース



(財)日本ユニセフ協会
兵庫県支部

〒658-0081 神戸市東灘区田中町5-3-18
コープこうべ生活文化センター4F
TEL.078-435-1605 FAX.078-451-9830
ホームページ
<http://www.office-bit.com/unicef-hyogo>

ユニセフ「エイズと子ども」世界キャンペーン¹/₂₅開始



c UNICEF/HQ05-0882/Shehzad Noorani

平和のリレー
今、私たちにできること



人形劇「ユニセフってなに」に神戸の森小学校校組の二、三年生が出演。9月17日にコープこうべ生活文化センターで行われた「被爆・終戦記念イベント」の第二部で、兵庫県支部学生ボランティア「ユニセフ」が人形劇を披露。学習会チームも声優デビュー...つどいに参加したみなさんと楽しく交流を囲みました。

お知らせ

これからの国際協力支援活動を考えるつどい

とき: 11月4日(金)13:00~15:30 ところ: 兵庫県民会館9階ホール JR元町・阪神元町駅より徒歩7分

スマトラ沖地震・津波復興支援活動の経験から、緊急支援・復興支援それぞれに対する、市民レベルでの国際協力活動のこれからを考え合います。

UNICEFのスマトラ沖地震・津波の支援活動報告

報告者: 西嶋礼子さん
(ユニセフ東アジア・太平洋地域事務所緊急救援計画担当)

ミニパネルディスカッション

「市民としての災害支援活動の今後」 紙芝居『井戸ができた』byユニセフ兵庫県支部

参加無料



主催 兵庫県生協連、日本生協連
協賛 (財)日本ユニセフ協会、(財)日本ユニセフ協会兵庫県支部
後援 兵庫県、神戸市

ユニセフカップ2005西宮国際ハーフマラソン

テーマ:「アフリカ児童医療救済に愛の手を!」

とき: 11月13日(日) ところ 武庫川河川敷内コースなど

あいめっせフェスティバル2005

ユニセフ兵庫県支部の活動紹介、紙芝居、カード頒布などをおこないます。

とき: 11月19日(土)・20日(日) 10:00~16:00
ところ 姫路市男女共同参画推進センター「あいめっせ」(イーグレひめじ3・4階)

ユニセフ HandinHand 『ハンド・イン・ハンド』に参加しませんか。

(財)日本ユニセフ協会では、毎年12月23日を『ハンド・イン・ハンド』の全国一斉活動の日とし、広くみなさんに募金のお願いをしています。

当日ボランティアとしてご協力いただける方を募集いたします。『ハンド・イン・ハンド』に参加してみようと思われる方、どうぞお気軽にお問い合わせください。

テーマ:「手と手で結ぶ子どもの未来」

とき: 12月23日(祝・金)11:00~13:00(予定)

ところ: 宝塚、西宮北口、住吉、三宮、元町、垂水、名谷、姫路

当日は現地集合、解散になります。
詳細につきましては、お申込みいただいた方に後日お知らせいたします。
参加ご希望の方はご連絡ください。



ユニセフ写真展 会場 コープこうべ生活文化センター 1階ロビー

『危機にさらされる子どもたち』
~アグネス・チャンが見たイラクとモルドバ~

とき: 12月7日~15日

『忘れられた子どもたち』
~アグネス・チャン日本ユニセフ協会大使の
スーダン・ダルフール視察記録~

とき: 2006年1月18日~30日

お申し込み、お問い合わせは兵庫県支部まで TEL 078-435-1605 FAX 078-451-9830

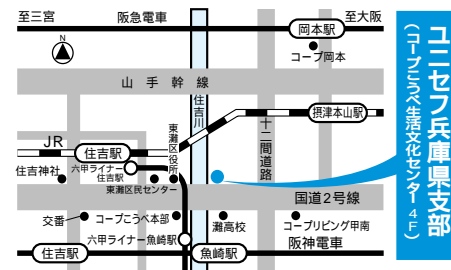
あとがき

今年度も上半期が過ぎました。スマトラの傷も癒えないうちにパキスタン地震...スーダンでは紛争が続き、国内では上越地震の被災者の人たちが厳しい冬に向かおうとしています。この地球上で平和と安全を保障された生活がいかに貴重なものか考えさせられます。改めてそんな想いをみなさんにお伝えできるWISHという場があることに感謝しています。(K)

Wish Vol.14号(2005年秋) ユニセフ兵庫ニュース

2005年(平成17年)10月発行(季刊)
発行:(財)日本ユニセフ協会 兵庫県支部
〒658-0081 神戸市東灘区田中町5-3-18
コープこうべ生活文化センター4F
TEL 078-435-1605 FAX 078-451-9830
(平日の10時~16時)

案内図 JR住吉駅下車、南東へ徒歩約8分



ユニセフ兵庫支部
コープこうべ生活文化センター4F

本紙は古紙100%の再生紙を使用しています。

パキスタン地震 緊急募金のお願い

郵便口座: 00110-5-79500
財団法人日本ユニセフ協会

通信欄に
「パキスタン地震 K1-280兵庫」と明記

ご寄付は郵便局指定の振込用紙をご利用の上、上記口座までお振込みください。
送金手数料は免除されます。

はしか、寒さ、飢えから子どもたちを守れ!

ユニセフ事務局長アン・ベネマンは次のように訴えています。「山岳地帯には冬の季節が到来し始め、子どもたちは、寒さや飢え、病気という生命の危険に直結しかねない状況に晒されています。被害状況が大きい地域では、殆どの家屋は崩壊し、何千人もの子どもたちの命が危機に晒されているのです。シエルターや栄養、保健医療など、子どもたちへの支援が最優先されなければなりません。」



c UNICEF/HQ05-1460/Pirozzi

記事、写真: 日本ユニセフ協会HP「パキスタン地震情報」より。

(財)日本ユニセフ協会創立50周年事業
ユニセフ講演会

「私が出会った世界の子どもたち」

箱山富美子さん(元ユニセフ職員)

2005年7月24日(日) 13:30~15:30

「コソボでは紛争直後にもかかわらず、人々のあたたかさ、子どもたちの瞳の輝きに、日本が昔持っていた人間生活の原点を感じた。精一杯ギリギリで生きていること、大家族に包まれていることからの安心感だろうと思う」穏やかに始まった箱山さんのお話は、紛争・危険の最前線に立って来られた体験に深く裏打ちされ、色々な観点から、平和の大切さ、本当の国際理解について、考えを深める事が出来たように思います。世界の子どもビデオ「まず平和がなくてはならない」も、心に残ります。

スライドをまじえながらご紹介いただいたエピソードは、コソボ、モリタニア、バングラディッシュ、中東など世界各地、内容も多岐に渡りますが、その中で印象的だったのは、中東の少年との何気ない会話で、「どこから来たの？日本ってどんな国？」「ラクダはいないの？ロバはいないの？ふ～ん、何もないんだ、日本ってつまらない国だね」と言った

少年の言葉です。日本の少年だったらもしかしたら、「お風呂がないの？TVゲームがないの？何もないつまらない国だね」と言うかも知れません。アルジェリア・タッシリアの青年は、草ひとつない



荒地を「こんな美しい景色は世界のどこにもない」と誇らしげに語るそうです。世界には様々な人々が様々な土地で誇りを持って暮らしている…本当の国際理解とは、それらの自分と異なるものを受け容れる、知らないものへの好奇心、なのではないでしょうか。

内戦で肉親が殺し合った過去を持つ者同志が関係を修復する事が現実にはいかに困難であるか吐露されながらも、箱山さんは淡々と力強く、国際理解について「しなやかな心を持って、相手に興味を持ち理解する力、確固とした自我を持って、はっきり相手に伝える力」、このように結ばれました。



世界各地のユニセフの現場で、「8月6日」の広島で、国際医療救援活動で、体験した人々との出会いを通して、命の大切さを考える3つのイベントを開催しました。

平和を願い、体験を語り継ぐ リレー講演会を開催

平和を願うつどい 「いのち伝える」

お話し 竹本成徳さん
(日本ユニセフ協会兵庫県支部会長)

今年は終戦・被爆60年に当たる節目の年、平和を願うつどい(コープこうべ第3地区・日本ユニセフ協会兵庫県支部共催)には、200名を超える参加がありました。

お話しは、「私の心からの願いは戦争をしないこと」「戦争だけはやってはいけない」と力強いメッセージに始まり、1・2部形式で、平山郁夫氏とのエピソードなども交えながら、いきいきと進行しました。言葉に出来ない、人間のすることではない、あってはならない光景



～被爆から60年を生き抜いて～

2005年8月20日(土) 13:00~15:30

を見た人から出る言葉の重さ。中でも印象深いのは、「妹が原爆で死んだ時、中学生だった私も兵隊になって仕返ししたいと思った、誰だってそう思う、けれどそれを繰り返していたら戦争は終わらない、想いを深めてやがて『恕す』(許すとは異なるもっと深い意味でゆるす、仏教用語) ことが出来た時、その想いを未来につなげたいと願う」という言葉です。

若い世代の参加者のお一人から、「私たちは誰でも楽しい事の方が好き、だから戦争とか重くて悲しい話は避けてしまう、けれど今日のお話を聞いて、避けてはいけない大切な想い

があることを、感動と共に気付かせてもらえた」との感想がありました。私たちがみんなの気持ちを代表していただいていたように思います。「戦争は理屈抜きにダメ！」このシンプルなメッセージを自分に刻み、次世代へ伝えること、そう断言できる人を一人でも増やすこと、世界の恒久平和への想いを新たに、心に刻む3時間でした。



被爆・終戦60年記念イベント

未来へつなぐ「今、私たちにできること」

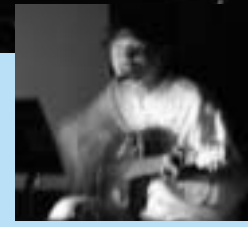
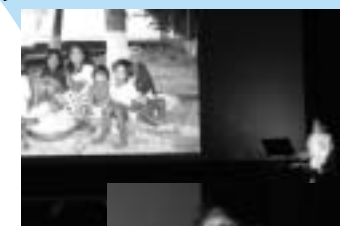
2005年9月17日(土) 10:00~15:30

第1部 10:00~12:00

ユニセフ人形劇、子ども参加:コーラス、昔のあそびなど
すいとん体験、パッチワーク:LOVE&PEACE
展示:CODE PHD ユニセフ など

第2部 13:00~15:30

地球のステージ1



映像と演奏、写真と語りで進行する「地球のステージ1」は、やっぱり感動。演奏者で、語りべで案内役でもある桑山紀彦さんは山形在住の精神科医。AMDA、JVCなどに所属し、長年世界の紛争、飢餓地域で国際医療救援活動に参加。そこで出会った人々との体験...フィリピンのスラム、内戦下のソマリア、東ティモール、旧ユーゴと...次々と繰られていく彼の「ステージ」に、耳を澄まし、想像し、涙する。ステージと参加者が一体となれた充実した時間を過ごせました。ありがとうございました。



AMDA:アジア医師連絡協議会
JVC:日本国際ボランティアセンター

アグネス・チャンの講演会で 思ったこと

学生ボランティア「ユニース」
武田 博嗣



6月12日(日)、高砂文化会館で行われた、アグネス・チャンさんの講演会に兵庫県支部からも数名参加しました。今回は教育講演会ということもあり、はじめは、日本の教育現場の現状についてアメリカと比較して、お話していただきました。

その後、日本にはあまりない年齢差別のこと、世界の子どもたちの現状のこと、アグネス・チャンさんの育ってきた環境のこと、中学時代に遊び半分で始めたボランティア活動を通して、いろんな人と出会い、考え、学び、そして知識がたくさん増えたということ、アイドル休止中のこと、復帰後ボランティア活動を始めて、自分の考えを大きく変えた出会いのこと、日本ユニセフ協会の親善大使になって、いろんな国を訪問して世界の現状を知ったことなど、アグネス・チャンさんの人生そのものがこの講演会に詰まっていたように思います。

最後に、アグネス・チャンさんには、夢がいくつかあるそうです。それは、世界中の子ども達と大人達に日本人を好きになってもらうこと。

そして、「一人でも多くの子どもが生き延びること」
「一人でも多くの子どもが大人になること」
「一人でも多くの子どもが自分の意志で強くなること」

が、彼女の夢であり、実現させたいことだそうです。

また、昨年末にスマトラ沖地震が起こり、そればかりに援助の手が伸びているが、その他の国(スーダン)ではたくさんの人達が亡くなり、援助が手薄になっていると言っていました。

ユニセフリーダー研修(8/25)

(財)日本ユニセフ協会 早水事務局長による
「スーダン・ダルフル報告会」に参加して

学生ボランティア「ユニース」 藤原 すみれ

私にとって、このスーダン報告会の内容は本当に衝撃的でした。日本という国の中で大学生活にバイトに忙しく、そしてこんなにも恵まれた生活をしているにもかかわらず、それでもまだ足りない様々な欲望に追われている私ってなんなのだろう?と考えさせられずにはいられませんでした。話を聞くほどにスーダンで起こっていることは残酷で、恐ろしく、こんなにも悲しいことが現実起こりうるのだ、神様っていないの?思わず考えてしまうほどでした。表現しがたいのですが、とても孤独な気持ちになりました。スーダンで起こったこと、そして現状を説明するのは簡単ではありませんが、なにより鍵となっているのはメディアの役割ではないかと感じました。

スーダンの紛争で亡くなった人の数はスマトラ沖地震で亡くなった人の数とほぼ同数だそうです。にもかかわらずメディアの規制が厳しいスーダンでは情報コントロールされ、その悲劇は世界の人々に伝わらないのです。スーダンで何が起き、今どうなっているのか?これは毎日でも取り上げられ、知られるべきことだと思います。

報告会での話を聞きながら、何度も思ったことは、どうして私はこんな深刻な状況を知らなかったのだろうか?ということです。本当に様々なことが、このスーダンの問題に関して挙げられると思います。しかし実際に現地の人々の話を聞き、現状を見てきた早水さんの話を直接聞いたということは私にとって非常に意味のあることでした。この報告会を通して、私の中に自分の周りや社会を見る際の新しい視点が強く組み込まれたように感じます。

このことを決して忘れずに、このような悲しいことが起こらないように、そして援助できるようににかアクションを起こせる社会人になりたい、ならなくてはと思いました。

(財)日本ユニセフ協会主催 「地域組織学習講師研修会」 に参加して

ボランティア・学習会チーム
戸崎 文子



8月22日(月)~23日(火)、グリーンヒルホテル神戸での研修会に真鍋・戸崎の2名が参加しました。「参加型学習による開発教育をいかに実践していくか」という目的でプログラムが構成され、2日間4つのワークショップを通じて学習が進められました。参加型学習というのは世界の様々な問題を知るだけにとどまらず、共生できる地球社会のために考え、行動できる人を多くつくるのが目標なのです。一歩前へ!! みなさんもどうぞ。

西宮にNPO・NGO・行政が集う 新しい 出会い、交流、発見 の広場が誕生しました

7月22日(金)、阪急「西宮北口駅」北西出口から歩いて5分の所にある「ゆとり生活館 AMIS」1階に西宮市の環境学習サポートセンターがオープンし、西宮市長も出席されてオープニングセレモニーが開催されました。

それに合わせて、NPO法人こども環境活動支援協会や

コープNPO・NGO交流コーナーも同時にスタート。ユニセフ兵庫県支部では、(財)PHD協会、CODE 海外災害援助市民センターとともに コープNPO・NGO交流コーナーでの活動を開始。ユニセフグッズの頒布や展示などを行っています。お気軽にのぞいてみてください。



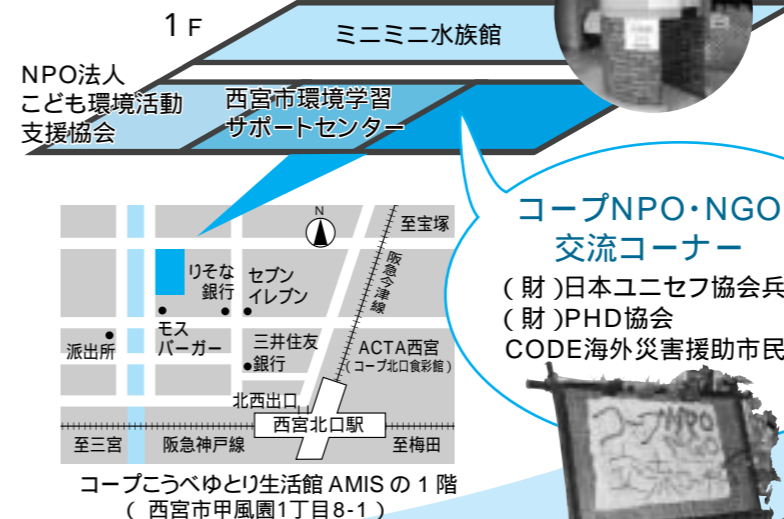
(財)日本ユニセフ協会兵庫県支部
TEL: 078-435-1605(県支部)
ホームページ <http://www.office-bit.com/unicef-hyogo>

(財)PHD協会
PHD運動とは1962年より約20年間、ネパール、東南アジアを中心とした発展途上国で医療活動に従事した岩村昇博士の提唱による国際社会福祉運動です。これまで自分のためだけに使っていた時間、技能、財などの10パーセントをささげて、平和づくり(Peace)健康づくり(Health)を担う人材をつくる(Human Development)運動を世界中にひろめることを目的として、1981年からはじまりました。
(『PHDレター』2005年6月発行より)

TEL: 078-351-4892
ホームページ <http://www.kisweb.ne.jp/phd>

CODE海外災害援助市民センター
CODE海外災害援助市民センター(Citizens towards Overseas Disaster Emergency)は、1995年1月17日に発生した阪神・淡路大震災の被災当事者をはじめとし、その後、復旧・復興・減災に立ち向かう市民・学者・ジャーナリスト・企業・行政・国際機関・NGOなどの幅広い市民が集まる核となる場です。
(パンフレットより)

TEL: 078-578-7744
ホームページ <http://www.code-jp.org/>



平成17年7月22日、コープこうべゆとり生活館「AMIS」1階に西宮市環境学習サポートセンターがオープンしました。このセンターは、環境学習の拠点として、市民の自主的な環境活動の支援や交流を推進します。また、館内には、市内の川や水路に生息する生き物約20種類を水槽展示した「ミニミニ水族館」があります。これまでの総来館者数は、約6,300人になりました。同センターの運営や環境学習に関するアドバイス、相談受け付けなどはNPO法人こども環境活動支援協会に委託しています。コープNPO・NGO交流コーナー(ユニセフ兵庫県支部)に来られた際には、隣接しております環境学習サポートセンターにもぜひ一度お立ち寄りください。みなさまのお越しをお待ちしています。

西宮市環境都市推進グループ 小川 雅由



『ユニセフ・カードとギフト 秋・冬号2005』



毎月7日はカード・グッズの頒布日です!
コープこうべ生活文化センター1階ロビー

アジア・太平洋地域エイズ国際会議でユニセフ展示

7月1日(金)～5日(火)、神戸国際会議場などを会場にして、第7回アジア・太平洋地域エイズ国際会議が開かれました。HIV感染者・AIDS患者の治療と社会的支援、急速な感染拡大の抑制などの課題が討議され、患者・感染者をはじめ医療、研究、政策などの専門家やアジア・太平洋地域から多くのボランティアが参加。



ユニセフコーナーでは、アジア・アフリカなどのユニセフ現地事務所から届けられたパンフレットやポスターの展示、カード・グッズ頒布を行い、県支部のボランティアが参加者と交流を深めました。

神戸市社会福祉協議会から募金贈呈を受ける



神戸市社会福祉協議会が神戸市と連携し、今年1月からスマトラ地震・津波の救援募金を呼びかけられました。県支部の事務所にお越しいただき、現地の子どもたちの心のケアなど復興支援に役立ててほしいという願いのこもった募金をいただきました。

「コープこうべ・播磨生協 合併10周年のつどい」

10月1日(土)、コープデイズ相生で開催。県支部ボランティアサークル『ウイズ』のメンバーやコープ委員のみなさんにご協力いただき、ユニセフグッズの頒布や紙芝居上演、ポスター展示など楽しく活動に参加しました。



ユニセフ展「今、アフリカで起きていること」

8月13日(土)～23日(火)、コープこうべ生活文化センターの1階ロビーで開催。この10年、アフリカで起きているさまざまな変化を、例えば、5歳未満児の死亡率が大きく改善された国がある一方、ほとんど変化のない国やむしろ悪化している国がある、そんなアフリカの現状を、また都市化や紛争、貧困、HIV/エイズなど新たに起きている問題を、この写真展を通してみなさんといっしょに考える機会を得ました。



「コープ・ユニセフ スマトラ 沖地震・津波復興支援募金キャンペーン」募金贈呈式



コープこうべでは、多くの組合員・職員さんの参加のもと「コープ・ユニセフ スマトラ沖地震・津波復興支援募金キャンペーン」が店舗や協同購入センターなどで取り組まれています。4月26日から6月末までの集中キャンペーン期間中に寄せられた募金額は約5,050万円(7/11現在)となり、9月1日(木)、(財)日本ユニセフ協会の東郷良尚専務理事が出席して募金贈呈式が行われました。コープこうべの浅田克己組合長理事から募金目録の贈呈があり、東郷専務理事が「組合員一人おひとりの気持ちを大切に被災地に届けさせていただきます」とお礼の言葉とともにいただきました。

これまでに訪問して開いた学習会

訪問日	訪問先	対象	人数
6月26日	日本ボーイスカウト神戸第6団	小学生他	26
7月11日	姫路市立八木小学校	小学6年	23
8月27日	大阪北生協	大人	30
8月31日	神戸市職労中央支部青年婦人部	大人	10
9月22日	阪神友愛食品(株)能力開発センター	訓練生他	19
10月11日	神戸市立宮本小学校	小学6年	21
10月23日	ガールスカウト日本連盟兵庫県第60団	小学生他	15



ユニセフチャリティコンサート 税所美智子ハートフルコンサートパート

9月24日(土)、尼崎アルカイクホールで、1500人を超える参加の中開催。

税所美智子先生が長年心に温めていたテーマ・天才ピアニスト、クララシューマンの愛と芸術に触れ、ユニセフとその向こうにいる子どもたちへの思いを、クララへの熱い情熱に重ねて歌われました。今回の趣旨に共鳴いただいた皆さんの先生方、練習を積み重ねてこられた合唱団のみなさま、長くご準備いただいた実行委員の方々にこころから感謝申し上げます。

たくさんの元気もいただきました。きっと遠く離れた子どもたちのもとに、歌声といっしょに届いていることでしょう。

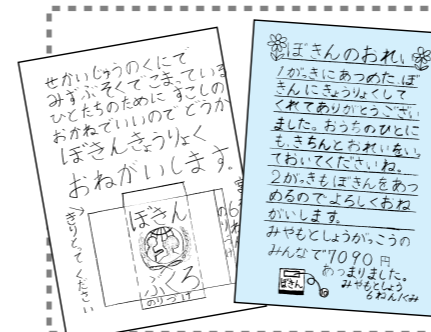


学習会でマペット人形劇を初お披露目



兵庫区のボーイスカウト神戸第6団での学習会は、小学生スカウトが中心ということでユニセフ兵庫県支部アイドルキャラクターのユニックとエフ君が学習会デビューしました。スカウトの目がキラキラ輝き、マペット人形の演出、練習の必要性を実感した90分でした。

宮本小・6年1組の児童が学内募金をユニセフへ



宮本小学校での募金贈呈式の様子。6年生との学習会では積極的な質疑応答もありました。



神戸市立神戸西高校文化祭でユニセフの取り組みが紹介される。神戸西高文化祭「清新祭」が10月1日(土)にあり、保健委員会の生徒たちによる「命について考える」活動発表が行われました。世界の子どもたちの現状を説明したポスターやユニセフの取り組みを紹介したパネルなどが教室いっぱいに展示され、西高生と一般参加の人たちとの交流が持たれました。



「ユニセフってなに？」加古川ではじめてのユニセフ展示 JR加古川駅構内に、この春新しくできた加古川市民ギャラリーで、9月21日(水)、加古川市教育委員会主催のユニセフ活動の展示会を開催しました。(財)加古川市ユニセフ協会や市民をつなぐネットワークを考える会「ふ・ふ」の皆さんからたくさんのご協力をいただきました。ありがとうございました。



ユニセフパークプロジェクト サマーキャンプ 2005 8月6日(土)～9日(火)、神戸市北区藍那でユニセフパークプロジェクトファシリテーターグループ主催のサマーキャンプが行われました。阪神・淡路大震災から10年の今回は、神戸や淡路の子どもたちと新潟の千谷市の小中学生も参加。「里山探検」や「遊び場づくり」、「水がめ運び」など思い思いの交流がありました。